



「ポスターはって祭典ムードを」と 自宅の堀に、車の窓に、知り合いのお店に



♪♪長崎祭典まで、あと74日♪♪

長崎祭典の開幕まであと74日。7月29日には、舞台監督も参加して企画プロゼクトの会議や会場視察が行われ、舞台設計も始まりました。企画内容の詳細も再検討され第9次案として翌日の実行委員会で承認されました。10月15日の「平和への想いコンサート」(ブリックホール)の座席指定ボードも、確定した座席の色が次第に広がっています。

10月16日の「長崎から世界へ 大音楽会」(アリーナかぶとがに=全席自由)のチケット普及がはじまるなかで

されているのが、「ポスターをもっと街なかにはって、祭典ムードを盛り上げよう」の声。

早速、練習会などでお願いすると、次々に2枚、3枚と持ち帰って張り出していただいています。

「花の輪」のKさんは、「知り合いのお店に頼んで回りたいので、ポスターを11枚ください」と事務所に。そのうち5枚には「チケットあります」の紙をはって、チケットもいっしょに置かせてもらう相談をしています。今後が楽しみです。

Mさんは、勤めているお店にポスター2枚を張りました。「チケットあり」の一言を書いたら、その日のうちに二人が買いに来てくれました。

ながせんのSさんは、「宣伝とは自分の気持ちを表現すること。ちょっと恥ずかしかったけど、思い切って車のボディにポスターをはりました。今ではモヤモヤ気分がぬけすーっとしました」と。ムードが高まればチケットも訴えやすくなりますね。

「私も歌います」と チラシに印をつけて郵送しました

私は、口だけでは説明できないので、自筆の手紙とチラシを入れた封書を10数通つくって、友人に郵送しました。私が出演する合唱曲には、マーカーで印をつけています。手紙には「見ごたえ、聴きごたえのあるプログラムです。10月15日は、テレビで有名な池辺晋一郎さんも指揮をします。16日の大音楽会は客席も丸ごと楽しむ内容で、『平和の旅へ』という感動的な大合唱もあります。本当はいっしょに歌ってほしいんですけど」と書きました。うれしいことに、一人から「ホテル代使ってでも行くよ」と返事が届きました。(諫早・A)

私はこうして チケットを 広げています

私にとってコンサートと切っても切れないのが名簿です。学生時代の同窓会名簿から、職場、年賀状など。まず電話かけ(だから我が家はいつも話し中)。いつもかける人、時々かける人、数年ぶりの人とさまさま。ご無沙汰をわび、近況を知ることができると大きな効果があり、なかなかいいものです。「大音楽会」の内容を知ってもらうために簡単な手紙をつけてチラシを送ります。間をおいてまた電話したり、訪ねて行きます。私は「よかつたら来て！」とはいいません。だってとても素敵な「大音楽会」ですから。なかなか聴けない音楽会ですからなどと、いかに素敵なコンサートかをアピールします。でもそれだけではなかなか広がりにません。顔が広くない私としてはどうしようかと悩みます。まあとりあえずという気持ちで、行きつけの喫茶店や美容院にポスターとチケットを置かせてもらっています。

新婦人コーラス「花の輪」田中 純子



ここに
注目!

ナターシャ・グジーさんと被爆地の子どもたち（16日）

「あの子」の練習会に70人の子どもたち

長崎原爆から4年後の1949年11月、原爆をテーマにした初めての歌が、原子野のなかで生まれました。永井隆さんが詞を書き、市の職員だった木野普見雄さんが曲をつけた「♪あの子」です。

以来この歌は、1300人余の児童が犠牲になった山里小学校の子どもたちとは切っても切り離せない大事な歌として、60年以上にわたり、その時々在校生によって歌い継がれてきました。

「ナガサキから世界へ 大音楽会」（16日・アリーナかぶとがに）では、ウクライナの歌姫・ナターシャ・グジーさんといっしょに、山里小学校の子どもたちによって、平和の歌声が響きわたります。高校生はもちろん、核兵器廃絶を願う小学生の声も世界中に発信されます。

7月28日には、大雨のなか、その第1回目の練習会がおこなわれました。（写真）「もう100回以上歌った」という上級生もいて、その演奏はさっきまで大騒ぎしていた子どもたちの集団とはとても思えません。「ねがい」のうたごえとも合わせて、素晴らしい舞台になることを予感させてくれました。



今週の主な予定

- 3日（火） チケット普及集約日
- 4日（水） プログラム作成会議
- 5日（木） 「平和の旅へ」練習会 6時半
- 6日（金） 「あの子」練習会 10時
- 7日（土）
- 8日（日） 原水禁大会・国際フォーラム
- 9日（月） 原水爆禁止世界大会
（市民会館 10時半）
- ・「平和の旅へ」演奏
（長与町民文化ホール）8時15分集合
- ・「平和の旅へ」演奏（桜馬場中）
9時半集合
- ・「一本のペンで」演奏
（市民会館・12時前に集合）
- ・「平和の鐘を鳴らそう」
（県美術館・3時前に集合）

お知らせ

■8月11日（水）16時

鉄橋で 歌いながらチラシ配布とチケット購入を呼びかける楽しい宣伝です。ぜひご参加ください。

「長崎祭典」の舞台

ここが魅力

「平和の旅へ」に寄せる想い

10/16 ナガサキから世界へ 大音楽会

千恵子さん親子の苦しみと愛

母の思い出とも重ねて

この曲は16歳で被爆し、17年前に亡くなられた渡辺千恵子さんの半生を語り、歌でつづった組曲です。私はこの曲を歌うたびに54歳で亡くなった母を思い出します。私は幼いころヤケドを負いました。今はわずかな傷跡しか残っていないのですが、母は「女の子に傷を負わせた」とずっと心を痛めていました。

千恵子さんは娘盛りに被爆し、障がいの身となりました。何の罪もない娘が、ある日突然、重い障がいを負ったことに、お母さんは、母親として想像もできないほどのつらい苦しい日々を過ごしてこられたことでしょう。

お母さんが、千恵子さんを一生懸命看病し、被爆の語り部として自立できるまで育て励まし、支えてこられたことに、母親としての強さと、子どもへの深い愛を感じずにはいられません。千恵子さんもまた、励ましにしっかりと応えて生きてこられたのです。

この曲は、そうした長崎の歴史の中で生まれ、長崎のうたごえ運動は、大きく励まされてきました。

一瞬にして多くの人々の命を奪い、人間そのものを否定する核兵器。この曲に綴られた、つらく苦しい思いを、これから生きる人たちに背負わせてはなりません。

そのために核兵器の廃絶を訴えていかなければと思えます。「平和の旅へ」を一人でも多くの人たちに聴いてもらうことで、核兵器廃絶の輪を広げ、命の大切さを感じてもらいたいと願っています。

「平和の旅へ」合唱団 平山繁子

